

てまいることにしています。この間、本当に多くの方々からお見舞いや激励、貴重なご意見等を多数頂戴いたし、まずもって厚く御礼申し上げます。

今回の名古屋市における水害は、内水氾濫でまさしく「都市型」の困難さが際立ちました。極端に言えば、通りが1本違うだけで浸水被害の状況が異なり、「被災地だ」と面では判断できず、点で必要な支援を届けることが求められました。当然ながら市のラインからは自治会や民生委員、社協のラインからはヘルパーなど、そしてボランティアも被害の甚大だった小さな面ごとにとにかく練り歩きました。また新しい試みとして、あいち生協のご協力により組合員（市内約14000人）に、また中日新聞販売店のご協力により、販売店（市内約300店舗）、新聞配達員（約1万人）に、「困った方がいないか」という情報提供やボラセンの周知をお願いしました。

一方で課題もたくさん見えてきました。大都市は被害の全体像をつかむまでに相当の時間が要したことに象徴されるように、市も市社協も組織が大きすぎて、せめて区ごとの小回りぐらいは確保すべきなこと、またラインに頼りすぎる体質の改善、そしてボランティア・NPO側も「災害系」以外のヨコの連携の強化や、そもそも市民にボランティアの存在をより広く知らしめていくことなど、まさに現場からの学びを通じて、来るべき巨大地震のことも含めて、突きつけられた思いでいます。そして一番重要なのは、市民一人ひとりの日常の暮らしの中から、「お隣さんは困っていないか」と気に留める関係を再構築していく必要性を痛感しています。

ボラセン閉所は一応の区切りに過ぎません。気になる方への再訪問や畳の搬入などの今後のニーズへの対応はもちろんのこと、ボラセンとしての振り返りの場を数回設けて与えられた課題についてしっかり議論してまいる所存です。いずれ皆様ともこうした情報を共有しつつ、いろいろとお知恵をいただく機会を設けたいと思っております。今後ともよろしくご協力くださいますようお願いいたします。

特定非営利活動法人レスキューストックヤード

〒464-0032

名古屋市千種区猫洞通 5-21-2 ライフピア本山 3F

TEL:052-783-7727 FAX:052-783-7724

Mail info@rsy-nagoya.com

kurita@rsy-nagoya.com

Web <http://rsy-nagoya.com/>

皆様

浦野です。お疲れ様です。

岡崎市防災ボランティア支援センターは、9月7日（日）をもって活動を縮小することになりました。

防災ボランティア支援センター自体は閉所され、岡崎市社会福祉協議会が今後の業務を引き継ぎます。

昨日一日の活動の様子を下記のようにご報告します。

[サテライトの様子]

○全体について

- ・前日からの持ち越しニーズ 4 件を含め、最終的には約 25 件のニーズに約 70 名体制で対応。
- ・土～日にかけて、親戚、家族が手伝いに来ていることで、ボランティアの依頼も増えたと考えられる。
- ・ニーズの依頼内容は、ゴミだしや仕分け、屋外の泥の撤去など、細々とした内容が主。ある高齢者の一人暮らしの世帯では、ほとんどの物が泥に浸かっており、屋外の倉庫に詰め込まれていた。傍からみれば処分した方がよさそうなものでも、「また洗って使える。一つひとつ自分で判断したい」とのことで、ボランティアに指示を出しながら、猛暑の中、時間をかけて作業をしていた。長時間の作業は 89 歳のお年寄りには本当にきつい。ボランティアも、ご本人の意向を十分に尊重しながら活動に当たっていたが、「これは 1 日、2 日では終わらないだろう。体の無理のない範囲で、1 日数時間ずつ、この方のペースにあわせて、ゆっくりお手伝いできる人が今後も必要だ」と話していた。(この方は地元のボランティアの方につながり、9 月 8 日以降も、個別に訪問を継続して下さることになりました。)

○炊き出しミニ喫茶

- ・本日のメニューは、カレーライスと大学芋。すたあと長田・ひのきしん隊の皆さんの協力を得て、150 食が完売した。
- ・昨日に引き続きサテライトに直接、市内在住の方が活動資金を持参して下さった方もいた。
- ・サテライトは今日まで、と告げると「さびしくなるねえ。明日からどうしよう・・・」などの不安をこぼす方や、「実は水害で家がとても住める状態ではないので、引越し先を探そうとしているが、1 日歩いてもいいところが見つからない。」という相談もあった。(この方は、専門家による相談会へ参加されました。)

※このサテライトの様子は、下記のウェブページで紹介されています。

「グッドニュース・ジャパン」

<http://goodnews-japan.net/news/blog/2008/09/07/4289>

- ・中越・KOBЕ 足湯隊のメンバーが、被災された方 5 名に対し足湯を実施。学生たちと笑顔で言葉を交わす姿が印象的だった。

○専門家による相談会の実施

- ・かねてから提案していた、行政からの復興支援サービスや悪徳商法に関する相談会を 7 日、17 時～20 時まで、サテライト近くの市民センターにて実施することができた。NPO 愛知ネット事務局長・大野さんのご尽力により、行政書士の方が相談窓口となって下さることになった。前日から周辺地域の総代へお知らせチラシを配布して下さり、炊き出し会場でもチラシの配布やご案内をした。「夜までや

ってくれるなら行けるわ」と、最終的に 11 名の参加があった。

[相談会の報告 (NPO 愛知ネット大野さんの報告メールより転送)]

□概要

1. 61 項目の行政サービスメニューリストのことをご存知ない方のほうが多く (配布された緑色のメニューのパンフレットを持参された方は 3 組でした)、その場でコピーを配布しました。

2. 2 組の方は、市からの説明会だと勘違いして駆けつけられました。ボランティアでやっていることをご了解いただき、概略の説明を行いました。

3. 匿名で市への不満を述べていった方が 1 組いらっしゃいました。

4. 足が不自由だから・・・とのご相談で、月曜日の午後、H 先生がご自分の車で市役所まで送迎され、手続きを取られる方が 1 組いらっしゃいました。

5. 今後継続してくれるのか・・・との質問も 4、5 組のかたから頂きました。具体的な日時や方法は決まっておりませんが、継続は致しますと、I 先生が回答されておりました。

6. 詐欺まがいの勧誘を受けた方が、「本当ですか？」と確認にお越しになりました。その方はサインなどはしなかったそうですが、周りの方でチラシをもらった方がいらっしゃったようで、そのチラシのコピーをいただきました。勧誘に来た人は、「市からボランティアできました」と言い、「全壊で 500 万円、半壊で 200 万円の保証金が、国からもらえます・・・、この手続きはまだ公開されておられません・・・」などと説明していったようです。そのチラシを見ましたが、手書きのコピーで、「岡崎市」とも「担当課」も書いてありませんでした。

※この件は、その場で市役所のほうに確認しました。チラシのコピーは、行政書士の I 先生が預かっております。

7. JC (青年会議所) の K さんが保険業務を取り扱っている関係で、保険の契約などについての相談は、K さんも加わってお話をされておりました。

8. それ以外の方々は、どんな補償があるのか、また具体的な手続きなどのご相談でした。

※半日程度の告知で 11 名の方々が相談にお越しになりました。皆さんの不安の高さや関心の強さがあらわれていると思います。今後定期的に、細く長く継続していく活動が必要だと考えます。行政書士の I 先生は、先生のグループのほかの先生に声をかけていただき、今後ローテーションを組んで取り組んでいくとおっしゃっていました。

今回の相談会は、復旧活動から復興活動への転換点だったとおもいました。地域の皆さんの理解やご協力で、とにかく相談会が開催できたと思います。これは、

「市民協働」の立派な事例ではないかと思います。こういった活動を、広幡学区以外の地域でどう展開してくのかなど、今後の課題は多いかと思います。今後、地域の方々の相互協力で、被災者の方々の復興を具体的に進展させていきたいと願い、報告を終わらせていただきます。(大野さんの報告はここまで)

[おわりに]

名古屋からの報告にもあるように、センターが閉所されても被災された方からのニーズは確実に残っています。とにかくこの時点でセンターが閉所されることが、被災された方を孤独に陥らせたり、問題や不安が生じた時に一人で抱え込ませてしまうことに繋がらないように十分に気をつけなければならないと思います。やっと繋がった個へのパイプを、こちらから切り離すようなことだけは、絶対にしてはいけないと思います。

しばらくの間は、「一人じゃないですよ、何かあったときには相談して下さいね」というメッセージを、様々な形でどう伝え続けられるかが重要なのではないのでしょうか。そして、被災された方が、「助けてください」という声をだしやすい環境を整えていくことも。そのために、一度ニーズ対応したお宅を際訪問するというのも大切かと思います。名古屋では、実際このような活動を今後も継続していくそうです。このような名古屋の取り組みから学ぶことも多々あると思います。

これらの取り組みを行うためには、引継ぎ先の社会福祉協議会の中に、相談窓口を設置するという待ちの姿勢だけでは不十分であると思います。そのことを私たちは、今回の支援活動を通じて十分に学んできたと思います。

だからこそ、これからの見守り、支援を行うためには岡崎市の住民の皆さんのご協力が不可欠になると思います。

皆さんの周囲に、手伝ってくれる人もなく、声も出せずに腐った床や畳の上で生活している人はいないか、積み上げられた家財道具を前に途方にくれている人はいないか、今一度見回してみてください。そして、そんな方を見つけたら、岡崎市社会福祉協議会まで連絡を入れてください。

また、当事者の傍に寄り添って、ゆっくりとお手伝いができる方の存在も不可欠です。

1日数時間ずつでも、その方のペースに合わせてながら、語りかけたり作業をすることが出来る方の存在です。

岡崎市にも、ボランティア団体や、地域の自治組織があると思います。「何かしたかったけど、自分たちに何かできるのかわからず手を出せなかった」とおっしゃられた方もいます。でも他市からのボランティアが去った今、頼りになるのは、地元地域の皆さんのきめの細かいサポートであると思います。

今こそ、岡崎市の地域力が発揮されるべき、重要な時なのではないのでしょうか。

このことを、岡崎市社会福祉協議会をはじめ、市内にあるボランティア、NPO、自治組織、行政、等多くの方々がご理解いただき、「一人ひとりの命と暮らしを守れ

る」被災地復興に向けて歩いていかれることを切に願いたいと思います。

今までご協力頂いた皆様、本当にありがとうございました。
今後とも、名古屋・岡崎の被災地を引き続き見守ってください。
よろしくお願い致します。

R S Y 浦野

2. 理事のつぶやき 『小川雄二』

「子どもがアレルギーで良かった」という言葉を、アレルギー児の保護者の口から聞くことがあります。もちろん子どもがアレルギーであることを喜んでいる訳ではありません。しかし、子どもがアレルギーであったことで、保護者の食べ物への関心が高まり、そのおかげで食を大切にする家庭になったという訳です。

食物アレルギーへの対応は、アレルゲンを除去しながら、必要な栄養を確保する必要がありますから、栄養や食品についての知識が不可欠です。アレルギー食に取り組むことは、保護者にとっては、非常に価値ある食育の機会にもなっているのです。さらに、親がアレルギー食を子どものために心を込めて手作りすることで、子どもたちは親からの愛情を感じることができます。子どもたちの発育に必要なものは、栄養素だけではありません。むしろ、幼児期から小学生頃までは、食をとおして心の栄養を受け取ることこそが大切です。こうしたことから、子どものために、アレルギーに真剣に向き合う家庭は、よい子育てができる例が多いのです。

このことは、子どもにとっても同じです。アレルギーは体質(遺伝)が背景)ありますから、アレルギーの子どもはそれと一生付き合う必要があります。大人になって親になれば、またその子どもがアレルギー体質を受け継いでいる可能性が高くなります。その時に備えて、アレルギー児自身が食の知識を増やしていくことも大切です。

アレルギー児に接する際に心掛けたいのは、アレルギーだからこそ、食事の場を楽しいものにするということです。決して、アレルゲン食品を「危険な悪いもの」のように扱ってはいけません。たとえば、卵アレルギーがある場合に卵を食べれば症状が出ることから、「卵は食べてはいけない悪い食べ物」というように子どもに対して伝えると、寛解後も、その食品を食べたがらないことになる場合があります。「いつかおいしい卵が食べられるから、今はがまんしようね」というよう対応が望ましいでしょう。

私は、講演などで「アレルギーの子どもは幸せに生きられる」とお話しています。先日のアレルギー大学でもこのことをお話をさせていただきました。アレルギーがあることで、親も子ども自身も食や環境に関心をもち、その結果、質の高い生活を送れるようになるからです。そして、アレルギー児の保護者の皆さんと接するたびに、この考えに確信をもちます。

(『心とからだの健康』健学社 2008年1月号「私の提言」欄に掲載した原稿を改変したものです。)

3. 東海アレルギー連絡会 『アレルギーっ子のつどい クリスマスローズ』

「アレルギーっ子のつどい クリスマスローズ」

私たち「アレルギーっ子のつどい クリスマスローズ」はおもに食物アレルギーの子どもをもつ母親が参加している会です。

小牧市中央子育て支援センターにおいて月二回の会合を開き、情報交換などを通して交流を深めるほか、小牧市市民活動団体およびこまきウィメンズネットに加盟し、市内でのネットワーク作りにも力を入れています。

普段の活動以外には年に数回勉強会を開催し、昨年度は小牧市市民活動助成金によりアレルギー支援ネットワーク中西事務局長をお招きし「食物アレルギーってなあに？」講演会および料理教室を行いました。

本年度は、愛・地球博開催地域社会貢献基金「モリコロ基金」助成金により、アレルギー支援ネットワーク「アレルギー大学」の初級講座のみのミニチュア版「ミニアレルギー大学小牧」を開催します。10月4・13・11月1・16・24・29・30日の全7回講座で、小牧市まなび創造館を会場に講義と調理実習を行います。

アレルギーっ子のお母さんはもちろん、学校・行政関係者や子どもと食にかかわる多くの方にぜひ受講していただきたいと願っています。

食物アレルギーは程度や症状・治療方針が人によって異なりますが、お互いを認め合い・支えあう会として、少しでもアレルギーっ子やそのお母さんの力になることができると願っています。

小さい子どもを抱える中での活動には様々な制約がありますが、その中で少しだけ背伸びをしつつ前へ進むことを繰り返しているうちに、たくさんの方のご協力をいただき、最初は夢のように思っていたことが徐々に実現に近づいてきました。一人の力は小さくとも、仲間と思いを共有し、歩みを揃えることで得られる力はとても大きなものだ実感しています。

私たちの会が様々な取り組みや催しをする際には、アレルギー支援ネットワークには多大なるご支援・ご協力をいただいております、感謝の気持ちでいっぱいです。アレルギーっ子がすこしでも暮らしやすい社会になるように、私たちの会も微力ながら努力していこうと思っております。

みなさま、どうぞよろしく願い申し上げます。

《お問い合わせ先》 代 表 ^{ひじかた} 土方 ^{ひろみ} 裕美 090-8860-0116

4. 会員からみなさまへ

はじめまして。四歳になる息子がいる母親です。赤ちゃんの頃からひどいアトピーと食物アレルギーがあり現在も卵、牛乳、小麦(醤油、味噌は大丈夫になりました)キウイフルーツを含む製品は完全除去中です。微量でも呼吸困難を起こしてしまいます。去年、転勤で名古屋に来てこの会を知り入会させていただきました。アレルギーに関して様々な情報を知ることが出来るのはもちろん、防災対策、地震に対しての情報も多く阪神大震災を経験した私としてはかなり心強いです。講演会などを通して今後アレルギー仲間の方とも交流出来たらいいなあ。と思います。これからもよろしくお願いします。T・A

5. 岡崎市集中豪雨報告

岡崎市集中豪雨報告

愛知県岡崎市では、8月28日未明からの集中豪雨により、600世帯以上が床上浸水し大きな被害を受けました。29日0時すぎには防災課を中心に「災害対策本部」設置。同8時30分に福祉保健部が「防災ボランティア支援センター」を設置し、社会福祉協議会や防災ボランティアおかげ、ほかNPO法人レスキューストックヤードなど民間ボランティアがその運営を行いました。

「災害対策本部」は、①災害対策活動②医療活動③復旧活動などを行いますが、「防災ボランティア支援センター」は、ボランティアをしてくれる方(主として掃除、片付け)を募集し、さらに、ボランティアを求める方も募集し(ニーズ受付)双方の橋渡し(マッチング)を行ないます。マッチングを行う人を、災害ボランティアコーディネーターといいます。

アレルギー支援ネットワークの事務局は、この愛知県岡崎市にあり、全国の皆さんよりご心配をいただきました。ありがとうございます。すぐ近くの川の橋は増水により道路ごと陥落しましたが、事務局は少し高台にあり浸水の心配はありませんでした。

事務局長中西は、岡崎市で「岡崎アレルギーの会」も主宰しておりますが、午前中に会員に対して安否確認メールを発信。床下浸水が一世帯ありましたが、登録会員約50人全員の無事を確認しました。このメール発信により、被災時の安否確認の練習をすることができました。

また、日頃より防災対策として、アレルギー対応アルファ米と水を市内5カ所の会員宅に備蓄、緊急連絡用会員メール登録や、「災害ボランティアおかげ」に所属し、バイクボランティアなど、横のつながりも持つよう心がけてきました。また、防災課に対しては、4年前に、①アレルギー用ミルクの備蓄②アレルギー対応アルファ米の備蓄③被災時のアレルギー患者窓口の設置について要請を行った結果、現在は、市内約30か所に備蓄してある粉ミルクやアルファ米の5%程度がアレルギー対応のものになっています。

さて、「防災ボランティア支援センター」(略:ボラセン)が設置された29日の午後、ボラセンに伺い、アレルギーでお困りの方がいらっしゃいましたら、私どもにご連絡をくださいと、中越沖地震などでも活用をしました「アレルギーのことでお困りの方へ」ポスターを持参し、災害対策本部など関連部署にもお願いに回りました。(後日、避難所などを巡回し健康相談を担当する保健所にもお願いに伺いました)

30日午後、床上浸水のあったマンションの一階に住む、若いご夫婦より、ボラセン経由で支援ネットの携帯電話にSOSが入りました。小麦のアレルギーのある7か月の赤ちゃんの離乳食がつかれないので支援してもらえないか・・・とのことでした。

幸い事務局には、アレルギー対応の離乳食の瓶詰めやレトルト、粉末のかぼちゃ・コーン・ポテトスープ、白がゆや野菜スープのレトルトなどがありましたので、同日の夕方にはお届けすることができ大変よろこんでいただきました。床上浸水のお宅はカーテンなども水に浸かった後が生々しく、畳もクッションフロアもすでに剥がした状態で、幼いアレルギーの子を持つ親の苦労が手にとるように理解出来ました。若いご夫婦は遠慮がちで、支援品だけでもいただけるのはありがたい、そのあとは自分達で何とかしますとのこと。これからもご相談があれば、ご連絡下さいとお伝えし帰路に着きました。

ボラセンでは、多い日には一日500人ものボランティアが支援活動にきてくれましたが、ボランティアを求めるニーズの方が少ない日もあり、被災者に対する広報の難しさを感じました。しかし間もなく、被害が大きかった地域に出向き、歩いてチラシを配るローラー作戦が開始され、テントを設営し、そこで、ボランティアを求めるニーズ調査を行いつつ、被災された方を支援する活動が始まりました。アレルギーでお困りの方も、このローラー作戦時のチラシによってニーズを発掘し、支援をすることができればいいなと感じました。

今回の水害で初めて、被災地域の状況やボラセンの活動を体験することができ、来たるべき東海・東南海地震に備えて、アレルギーっ子の対策を一步前進させたいと思っています。アルファ米や缶詰の備蓄食品だけではなく、ミルクや離乳食も必要なことがわかりました。緊急時の連絡体制の見直しや、日ごろから地域の災害ボランティアとの連携も大切でしたが、災害時の地域の会の役割分担と事務局との連携のあり方も課題があると分かりました。

この体験と報告が多くの地域での、防災対策に役立てていただければと思います。

事務局・中西

6. ホームページのお知らせから

A) 食物アレルギーひやりはっと事例集

<http://www.alle-net.com/taisaku/indexn.html>

皆さんは、アレルギーを誤食したことは、これまでにありませんか。そのときのお話を、募集します。是非お寄せください。事務局 園木(sonoki@alle-net.com)

B) 第3期アレルギー大学「調理実習献立一覧」

<http://www.alle-net.com/blog/event/2008%20alle-dai%20tyouri-kondate%202008.03.12.pdf>

C) 最新版アレルギー大学日程のお知らせ

D) 「ぜん息」症状のある方へ モニター調査にご協力ください

http://www.alle-net.com/blog/event/2007/11/post_17.html

E) 「防災・救援ネットワークシステム」への登録のお願い

http://www.alle-net.com/blog/event/2007/11/post_18.html

7. ボランティア・スタッフ募集

ボランティア・スタッフを募集します

《アレルギー支援ネットワークでは、ボランティア・スタッフを募集しています》

- ・ パソコン(ワード、エクセル、アクセス、お絵かきなど)が得意な方
- ・ イラストなどを描くのが得意な方
- ・ 何でもやってみたいという方
- ・ イベント、フェアなどを手伝ってくださる方

まずは、ご連絡ください。お待ちしております。

詳しいことは、事務局までお問い合わせください。

【問い合わせ】NPO 法人アレルギー支援ネットワーク 事務局（担当：中西）

FAX： 0564-55-5702 e-mail：info@alle-net.com

8. アレルギー支援ネットワーク一般会員募集します

《アレルギー支援ネットワークでは、一般会員を募集しています》

詳しくは、<http://www.alle-net.com/>

「支援ネットについて」の「会員の特典・入会書」をお読みください。

【問い合わせ】NPO 法人アレルギー支援ネットワーク 事務局（担当：中西）

FAX： 0564-55-5702 e-mail：nakanishi@alle-net.com

★皆さんのお近くで、アレルギーに関心、興味をお持ちの方、アレルギーでお悩みの方がいらっしゃるようでしたら、「アレルギー支援ネットワーク・メールマガジン無料登録」をご紹介ください。

★メールアドレスの変更や、このメールマガジンに関するお問合せは、asn-mailmagazin@alle-net.com（担当：園木）までお願いします。また、今後、アレルギー支援ネットワークのメールマガジンを希望されない方は、お手数ですが、件名に「配信停止希望」と書いてメールをお送りください。（メールマガジン配信準備の都合上、配信停止手続きと行き違いでお届けする場合がございますが、ご了承ください。）

★このメールマガジンのメールアドレスには、返信はできません。ご注意ください。

★メルマガの転載について

無断転載・転送を禁じます。アレルギーの会などが活動で使用する場合は、事務局担当（園木）sonoki@alle-net.com までお尋ねください。

★会員のみなさまからのご要望、お便り、アレルギーについての疑問などお寄せください。

NPO 法人アレルギー支援ネットワーク

◇事務局◇ 444-0802 愛知県岡崎市美合町三ノ久保 13-3, 103

▽TEL/FAX : 0564-55-5702 ▽E-mail : info@alle-net.com

☆◆-----◆☆